

ごみで埋まる住空間

住生活とごみのかかわりに関する研究 第4報

日女大家政 小川信子 ○沖田富美子

目的 これまで家庭内ごみと住生活との関係を、種々の側面からとらえ、そこに派生している問題を追求し、本報告は、昨年度発表したごみの予備軍とも言える死蔵品の実状の報告を受けて、これら死蔵品が住空間を圧迫している現実を、提示することにより家庭内ごみが住生活上の問題を引き起こす一要因となっていることを明らかにする。

方法 関東地域の一女子大学の学生の家庭を対象に、1993年7月アンケート用紙による記入調査と死蔵品のおかれている場所の平面図採取をおこなった。有効回収件数は97件である。平面図より死蔵品と置き場所に困っている生活用品の場所、状態について分析する。

(死蔵品とは、十分使えるが使うあてはないので処分するもの、使うあてはないが処分するには惜しいもの、壊れていて使えないが処分できずに置いてあるもの)

- 内容**
- 死蔵品の多くは、押入や家具に収納されている。
 - 収納されている死蔵品は、さらに箱や専用ケースに入れられているケースが多い。
(これは死蔵品をさらに使用しにくいものとしている)
 - 収納されていない死蔵品には、部屋備品類、楽器類、家具類、家事用機器類など大型のものが多い。
 - 死蔵品と置き場所に困っているものはともに、和室(公的、私的空間以外の室)、子供室、LDKに多く置かれている。
 - 一方置き場所に困っているものは、死蔵品にくらべ収納されずに外にあふれでている状態にあるものが多い。